

このリーフレットを活用して

『学校図書館オリエンテーション』をやってみましょう

- ・全ての教職員が子どもの読書意欲を高めるよう取り組みましょう。
- ・学校司書・公共図書館司書と連携して取組を進めましょう。

「学校だより・図書だより」で知らせましょう

- ・読書の重要性を啓発したり、様々な読書活動への親子での参加を呼びかけたりすることを通じ、保護者や地域の方に対して子どもが本に親しむことへの理解を促しましょう。

*こうした活動を展開するためにも、ぜひ学校図書館をもっと活用しましょう。



子どもたちの「読書の世界」を広げよう

子どもの読書活動に関する調査研究等

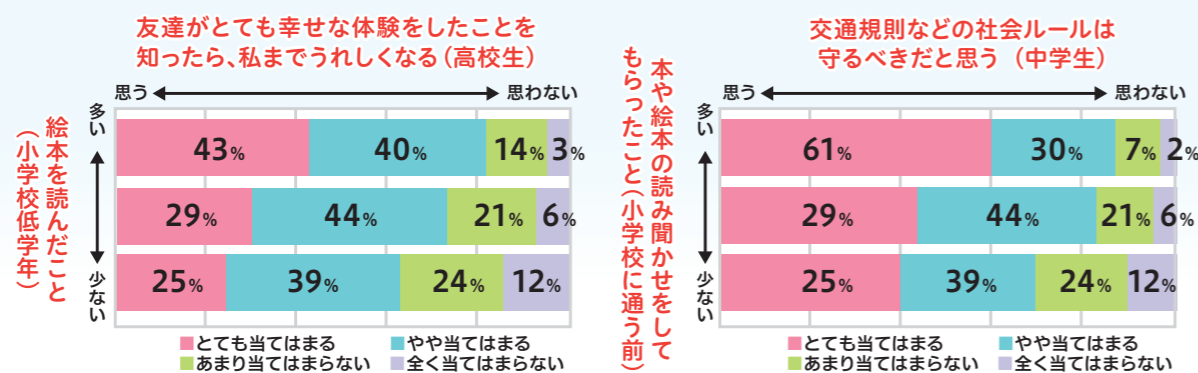
『子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究』より

- ・子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と認知能力が高い傾向がある。
- ・興味・関心にあわせた読書経験が多い人ほど、小中高を通じた読書量が多い傾向にある。
- ・年代に関係なく、本（紙媒体）を読まない人が増えている（平成25年と平成30年を比較して）。
- ・一方で、スマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスを使った読書は増えている。
- ・読書のツールに関係なく、読書している人はしていない人よりも意識・非認知能力が高い傾向があるが、本（紙媒体）で読書している人の意識・非認知能力は最も高い傾向がある。

(引用：国立青少年教育振興機構「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究」調査結果の概要 令和3年8月)

『子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究』より

子どもの頃（就学前から中学時代）に読書活動が多い中学生や高校生ほど、現在も人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの社会性が高い傾向にあります。



(引用：国立青少年教育振興機構パンフレット『読書 手伝い 外遊び』平成29年3月発行)

出典「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」



「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの*1)です。子どもたちが自主的に読書活動を行うことができるように、学校で意図的・計画的な活動を仕組み、子どもたちの読書習慣の形成を図りましょう。また、家庭や地域にも日常的な読書活動を呼びかけていきましょう。

このリーフレットでは、読書活動の具体的な取組例を紹介しています。これらを参考に、子どもたちが本を手に取りたくなる読書活動をはじめてみましょう。

*1「子どもの読書活動の推進に関する法律」第二条 基本理念

関係法令等

- 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年12月施行）
- 第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（平成30年4月）「第五次基本計画」令和5年4月策定予定
- 第4次滋賀県子ども読書活動推進計画（平成31年3月）「第5次計画」令和6年策定予定
- 学校図書館法（昭和28年施行）（平成28年改正）
- 学校図書館ガイドライン（平成28年11月通知）

関連サイト等

- 1 滋賀県子ども読書活動支援センター
- 2 滋賀県教育委員会
- 3 滋賀県立図書館
- 4 子ども読書の情報館
- 5 全国学校図書館協議会
- 6 国際子ども図書館
- 7 国立青少年教育振興機構



子どもの読書活動の意義ってなんだろう？

豊かな語彙の獲得

読書は、多くの言葉を自分に取り入れるため、言葉によって考えや気持ちを整理し、相手に正しく伝える力を育てます。

知識の習得

読書によって、個人の経験を超えた幅広い知識を得ることができます。

感性や情緒を育む

豊かな表現力を用いて書かれた本は、読者に深い感動を与え、感性や情緒を育みます。

「読み解く力」の基盤

日常的に本を読み、その本の内容を解釈し理解していく経験は、「読み解く力」の基盤となるものです。

生きる力を育む

読書は、著者の知識や考えにふれながら、それと向き合い考えることによって自己を変革形成していく、人の成長にとって重要な営みです。

子どもたちの日常に読書活動を

～読書を勧める方法を紹介します～

それぞれの取組についての参考資料等はこちらをご覧ください。▶



読み聞かせ

子どもたちは、読み聞かせを通じて言葉を獲得するだけでなく、本への興味関心が高まります。また、絵本に限らず、選書を工夫することで、中学生、高校生にも効果的です。

子どもの発達段階に合わせた本を選んで実践してみてください。

取組例

- 学級や学年を超えて様々な教職員が担当
- 授業内容や行事との組み合わせ
(人権週間、卒業、国語や外国語の授業等)
- 地域の読書ボランティアとの連携
(朝の時間、昼休み、授業中での読み聞かせへの協力や本選びのアドバイス等)
- 読み聞かせに手話を添える・手遊びや歌を交える
- さまざまな言語の絵本を併用



本への興味がわくような工夫を凝らしながら、ジャンルの異なる複数の本をテーマに沿って紹介する活動です。様々な本に触れることができるため、読書への「誘い」として効果的です。

*ブックトークのガイドブック・ガイド動画はこちら



ブックトーク



取組例

- 地域の読書ボランティアとの連携
- 道徳や学級・HR活動の内容との組み合わせ
- 音楽や小物を使うなどの工夫を加える
- 「2人ブックトーク」2人が掛け合いで実演する「ブックトーク」の手法
(2人の掛け合いで進めていくことで、展開にメリハリをつけることができ、子どもの興味関心をより喚起することができる)

読書ソムリエ

図書委員や読書リーダーとなる子どもたちが学校図書館や読書活動について学び、読書の楽しさを広げる取組を進めます。「読書コンシェルジュ」、「子ども司書」の名称でも呼ばれます。

取組例

- 子どもたちによる学校図書館の企画展示
(行事等に合わせた展示やおすすめ本の紹介等)
- 子どもたちによる同世代や異年齢の子どもたちへの読み聞かせ
- 「読書郵便」
(おすすめの本を紹介する手紙によって、子どもたちから子どもたちへの読書の輪を広げる取組。図書委員は、読書の輪をつなげる郵便屋さんの役割を担い、校内に専用のポストを設置することが多い)
- 「POP・本の帯コンテスト」
(自分の好きな本や友だちに紹介したい本のPOPや帯を作成し、学校や公共図書館、地域の書店等で展示)



全校一斉読書

学校生活の中で、一定時間本に向き合う機会を設けることにより、全ての子どもに読書の習慣付けを図る取組です。

取組例

- 「朝の読書」
- 「子ども読書の日(4月23日)」や「秋の読書週間(10月27日～11月9日)」に合わせて行う

書評合戦(ビブリオバトル)

発表者が読んで面白いと思った本を一人5分間で紹介し、その発表に関する意見交換を2～3分程度行います。全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか」を参加者の多数決で選ぶ活動です。ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができます。

取組例

- 全校ビブリオバトル大会の開催
(まず各学級でビブリオバトルを実施し、各学級のチャンプ本による全校大会を開催)
- パソコンやタブレットの活用(それぞれが紹介した本やチャンプ本の共有等)
- 「ミニ・ビブリオバトル」の実施
(ビブリオバトルの公式ルールでは、1人5分間で本を紹介することとしているが、「ミニ・ビブリオバトル」として1人3分間で本を紹介する形式もある)



読書へのアニメーション

アニメーションとはスペイン語で「魂や心を生き生きさせる」という意味です。子どもたちの参加により行われる読書活動の一つで、読書の楽しさを伝え自主的に読む力を引き出す手法です。

さまざまな取組例を紹介したアニメーションについての本がたくさん発行されていますので、子どもたちの発達段階に合わせた活動内容を選んでみましょう。

取組例

単なるクイズで終わらないよう、子どもたちの興味に合わせて活動を組み立てるとともに、本を一冊丸ごと扱ったり本の紹介を入れたりすることで、その後も本に関心が持てるような配慮が必要です。

- 「読書カルタ」
(子どもたちが知っている本をもとにカルタを作り、教師が読み札を紹介、子どもたちが本の内容がわかる絵を描いた札を取る)
- 「ダウトをさがせ」
(1回目は本の内容を原文のまま読み聞かせ、2回目は読み手が本の内容をわざと間違えて読み、聞き手は違いを発見したら「ダウト」と言って挙手する)



その他にも

ペア読書

家族や他の学年、クラス等様々な単位で一冊の本を読み、感想や意見を交わす取組です。相手を意識し、本を共有することができます。感想を手紙等の形で相手に伝える方法もあります。

家読(うちどく)

家庭において子どもを中心に家族で同じ本を読むことで、本を媒体として相互理解を深め、家族の絆(ぎずな)が一層深まることを目指す取組です。地域によっては、「家庭読書」や「ファミリー読書」とも呼ばれています。

学校や自治体で設定した「家読の日」に合わせ、読書をする時間はテレビを見たりゲームをしたりしないことを推奨したり、学校図書館に「家読おすすめ本」コーナーを設け保護者にも借りてもらえるようにしたりするなど、多様な子どもや家庭状況に合わせて様々なスタイルで取り組むことができます。

映画等と原作の比較

原作本を読みながら映画(ドラマ)を鑑賞する等、映像作品と比較しながら本を読む取組です。どちらが先でも、章ごとに区切ってもかまいません。原作本のよさ、映像作品のよさを話し合う機会をもってみましょう。

まわし読み新聞

みんなで新聞を持ち寄り、気になる記事や、面白い記事を一人1件ずつ切り抜き、なぜその記事を選んだかプレゼンを行います。その後、みんなで今日のトップ記事を決め、上から順番に記事を貼っていき、最後に編集後記を付けて完成です。新聞の記事に親しみ、じっくり読むことができる取組です。切り抜きをもとに、感じたことを順にスピーチさせ、記事を教室に掲示していく取組でさらに深めることもできます。

